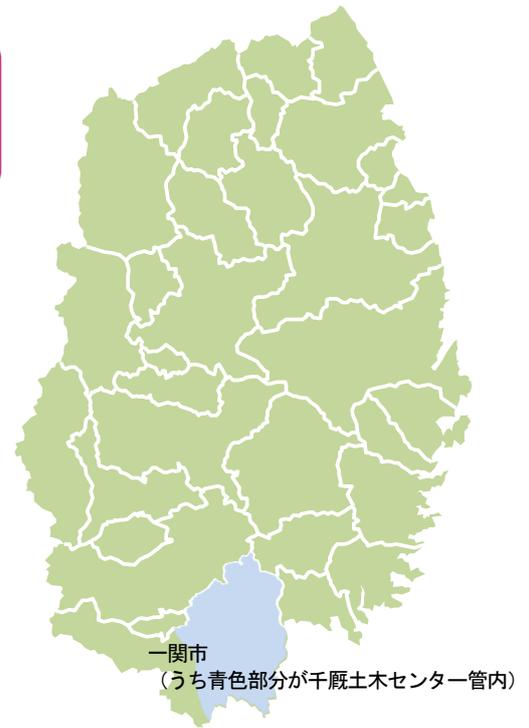


県土整備部の職場紹介 No.12

県南広域振興局土木部千厩土木センター



地域概要

千厩土木センターは、岩手県の内陸部南端に位置して南は宮城県に接し、西の北上川の流域平野部、東の三陸海岸部との中間にあり、一関市の一部（旧東磐井郡の大東町・千厩町・東山町・室根町・川崎町・藤沢町）6地区で構成されています。東西に約25km、南北に約40km、総面積719.19k㎡であり、一関市の57.2%、県土の4.7%を占め、冬も厳しく冷えることの少ない、県内でも比較的温暖な地域です。

管内には内陸部と沿岸部を結ぶ横断軸としての国道284号、343号等があり、東日本大震災からの本格復興完遂を支援するため、復興支援道路の橋梁耐震補強を推進しています。

組織体制

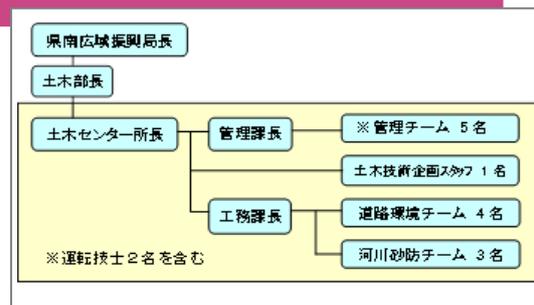
○平成28年度組織キャッチフレーズ

～ともに創る^{無限大}県南局プラス！～

○組織の特徴

当センターの組織は、所長以下2課及び1スタッフ（管理課・工務課・企画スタッフ）で構成され、職員数は、正職員16名と臨時、非常勤職員10名を加え、総勢26名と少人数の体制ですが、風通しの良い明るい職場です。

庁舎管理を含む管理一般、道路維持及び河川砂防急傾斜地事業を所管しており、管内の道路建設事業及び用地、建築指導事務は一関土木センターで行っています。



今年度の主な取組

1. 快適で活力あるまちづくりの推進 (一般国道456号 千厩まちば再生支援)

千厩の中心市街地を通る一般国道456号を、「ひと」で賑わう“ふれあいの道”として位置付け、「みち」の活用を起爆剤とした「まち」の再生を促すことを目的とした「ふれあいの道づくり計画」に基づき、整備と維持管理を道路管理者（県）、一関市及び地域がそれぞれ役割を分担して協働により実施しています。

平成22年度から社会実験やワークショップを重ねながら平成26年度に工事着手、平成29年度の完成を目指しています。



2. 産業を支える社会資本整備の推進 (一般国道284号 折壁簡易PA整備)

復興支援道路として整備が進む室根バイパスに併設される道路休憩施設として、一関市とともに平成25年度から建設を進めており、県内32番目の道の駅登録を目指しています。

施設はバイパス供用に合わせてオープン予定です。



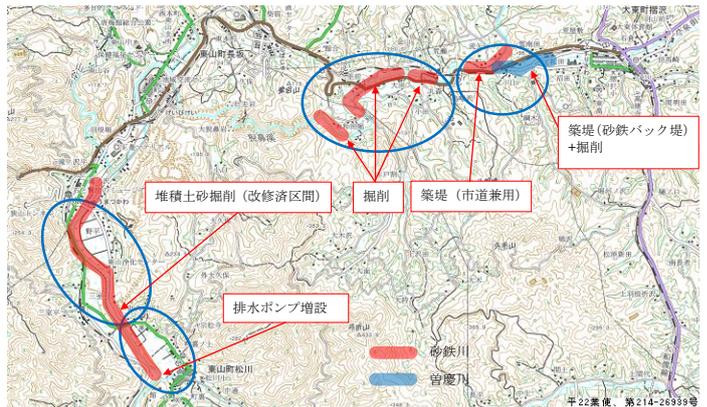
(仮称) 道の駅 室根山 イメージパース

3. 社会資本の維持管理と安全で快適なまちづくりの推進 (一級河川砂鉄川 洪水災害対策)

砂鉄川流域では平成25年7月の豪雨による急激な増水で甚大な被害が発生しました。

このため、被害の大きかった東山町松川、大東町洪民地区について、昨年度までに河道掘削や特殊堤の整備を実施し、今年度も引き続き河道掘削を中心とした対策工事を行っています。

また、浸水被害の大きかった砂鉄川と曾慶川との合流区間では築堤等の河川改修、中通川水門では内水排水ポンプの増設を計画しています。



着手前



河道掘削
特殊堤完了

独自の取組等

1. 職員の能力開発に向けた取組

OJTの一環として平成24年度から全職員(運転技士、臨時・非常勤職員を除く)参加による自由な題材でのプレゼンテーションを毎月続けています。事業計画や方針を県民や関係者に説明し理解を得ること、組織における意思統一や情報共有を図るためのスキルを身につけることなどが目的の職場研修ですが、業務以外にも個人の趣味や知識、資格の紹介など多彩な話題が紹介されています。



月1回実施の職場研修

2. ビジネスパートナー(建設業協会)との協働意識向上への取組

異常気象時の迅速で正確な情報収集を目的に、建設業協会、一関市(旧東磐井)及び千厩土木センターで情報伝達訓練を毎年実施しており、伝達方法や新しいメディア利用について改善を行っています。また、鳥インフルエンザの発生を想定した埋却の実地訓練などを通して危機対応の意識共有を図っています。



災害情報伝達訓練



鳥インフル実地訓練



スマホによる画像伝送

建設マン モグちゃん
(マジガキワッケー)

